

第4回白馬村食育推進会議 会議録（要約）

召集年月日	平成29年2月20日（月）午後3時				
召集の場所	白馬村役場 2階 201会議室				
開閉会の日時 及び宣言	開会	平成29年2月20日（月）午後3時	副会長	田中 榮一	
	閉会	平成29年2月20日（月）午後4時00分	副会長	松沢 正猛	
出席者数	委員数18名の内 出席者14名				
出席委員	職名	氏名	職名	氏名	
	委員	鎌倉 重子	委員	滝澤 達也	
	委員	田中 みつる	委員	石野 真	
	会長	松沢 正猛	委員	太田 昭子	
	委員	平林 伸一	委員	塩島 弘之	
	委員	大久保 ちひろ	委員	堀内 亜矢子	
	副会長	田中 榮一	委員	福島 和子	
	欠席委員	杉山 茂実		窪田 久義	
		中村 豊		柏原 英司	
		横川 辰彦		大林 禮子	
事務局	健康福祉課長	太田 洋一	農政課長	横山 秋一	
	健康福祉課 健康づくり係長	工藤 弘美	農政課 課長補佐	下川 啓一	
	健康福祉課 管理栄養士	丸山 美和	農政課 主事	山岸 大輝	
傍聴者	なし				

## 1. 開 会

〔田中副会長〕 出席に対しお礼を述べ、開会を宣言した。

## 2. あいさつ

〔松沢会長〕 第4回協議会への出席に対しお礼を述べ、まとめの段階に入り、意見をまとめ村長に答申してまいりたい。

### (1) パブリックコメント結果について

〔議長：松沢会長〕 事務局に説明を求めた。

〔事務局：丸山〕 前回会議で協議がなされたパブリックコメントについて、実施した結果、提出意見がなかった旨報告した。

〔議長：松沢会長〕 事務局の説明に対して質疑・意見を求めたが、特になく次の協議へ進んだ。

### (2) 計画について

〔議長：松沢会長〕 事務局に説明を求めた。

〔事務局：丸山〕 別綴資料 計画（案）により、前回会議において各委員から出された意見を反映し修正した旨説明。5 ヶ年の推進テーマの部分で、順番についての事項をお預かりしていたが、まず初めの年に作物、文化、現状、加えて食育関連団体の活動についても知るきっかけづくりの年になればという思いから一番初め。次いで朝ご飯、みんなで、野菜をの3つの食べようという項目により、実際の体験、経験を推奨もしくは体験できる機会を提示していければよいと感じる。最後につくろうとあるが、作物、歴史、料理、関係性、様々な意味をもち、住民が自らが能動的に発信・行動する側、自ら行動する側になれるようなアプローチができればという思いをこめて最終テーマとした。他の大きな変更はない。

計画（案）について、変更等ないようであれば、資料1のとおり委員会として会長から村長へ答申書を提出したい旨説明。

〔議長：松沢会長〕 どんな形であろうと村民に食を意識してもらうことが大事。今後村長との予定を合せつつ、この形で答申していきたい旨説明。事務局からの説明に対して、加えて計画全体に対しての意見を求めた。

〔大久保委員〕 計画（案）13 ページの朝食の項目にグラフと文章に数値の違いがある。

〔事務局：丸山〕 グラフの数値が正しい。文章を訂正させて頂く。

〔大久保委員〕 15 ページ共食の文章に記載した合計がグラフと照らして合わないのではないか。文章を直した方が誤解を招かないのでは。

〔事務局：丸山〕 小学生・中学生に関しては「子どものみ」の数値は「家族のただかと」に含めている。

〔事務局：横山課長〕 文章に（子どものみを含む）としてはどうか。

〔事務局：丸山〕 ご意見の通り訂正させて頂く。

〔田中委員〕 15 ページ下の「家庭にいる割合の高い中学生」という文章はわかりにくいのではないか。

〔事務局：丸山〕 「家庭にいる割合の高い」部分が混乱を招いているので削除とさせていただきたい。

〔松沢会長〕 今の予定は 24 日の午後に村長に答申に行く予定。それまでに誤字等訂正があれば修正していただきたい。次の議題へ進んだ。

### （3）平成 29 年度食育関連事業について

〔議長：松沢会長〕 事務局に説明を求めた。

〔事務局：丸山〕 資料 2 により、来年度テーマは「白馬の食を知ろう」について、何を知ろうという部分は各団体、や個人様それぞれの立場からの解釈をしていただきたい。また、これに関し、新事業の提案というわけではなく、普段から行っている事業の中でまたはやってみないけど一団体では難しいことなど、各団体で連携を図りながら内容を充実させていき、食育を推進していければいいということを意図するもの。

委員の皆様には今回のテーマを頭の片隅に置いたうえで来年度の個々の食育事業に関してのご意見、ご紹介を頂きたい。なお資料 2 は本日回収し、記入いただいたのものについて資料 2-2 に追加修正したものを再度委員にお返す旨説明。

〔松沢会長〕 資料の 2-1 に関し委員からご意見いただきたい。

〔田中委員〕 鎌倉さんと、栄養士会で今年公民館事業として、住民全般を対象に白馬の食文化の伝承、調理実習で地産地消の事業を来年度 5 月から予定。

また、生活習慣病に関し、食事と運動の観点からお話や指導によって、なにかお手伝いができればと考えている。

〔石野委員〕 道の駅のレストランでの地場産品使用を進めるにあたり、魅力を伝えるアイデアとして白馬でも国体、登山などスポーツが観光で多くを占めることから、運動と食事という観点での取組の話が進んでいる。たとえば国体メニューとして「白馬の豚丼」も「豚丼」+「サラダ」「ヨーグルト」のセットなど健康を考えたものを提案。伝統的な食とはまた切り口が違うと思うが、オリンピックが多い村として体を動かすことと食という切り口からやっていきたい。

〔鎌倉委員〕 少しずつ動きだしているのだなと感じる。頑張りたい。

〔堀内委員〕 大北地域全体では毎年、「大北地域食育フォーラム」を開催。今年度は小谷、来年度は大町の予定。食育推進協議会が確立されている村は少なく、すごく良い取組だと思うので PR の場としてもぜひ食育フォーラムを使っていたいただきたい。また、県ではエネルギー量、塩分、野菜量

の基準を満たした品を出す料理店を「3つの星レストラン」として認定する取組を行っている。

〔滝澤委員〕 今年度に引き続きアグリスクールを実施。特産品のPRについては来年度も引き続き行政と協力してやっていきたい。

〔平林委員〕 南小では来年度も調理師会にお願いして味覚の授業を予定。来年度のテーマに関わり、食に関する指導目標に地域農産物についての項目があり、つながればいいと思うが、実際今給食指導や生活科で土に作物を育て、味わうといった活動を行っており、そのこと自体が白馬の食を知るということで、地道ではあるが地道な中でもしっかりとしたことをやっていきたい。

〔大久保委員〕 子供たちに給食を出すうえで感じるのは、子供たちは地元の野菜を知らないということ。今年度は農政課と教育委員会で話していただき、紫米が白馬の特産品であることを知ってもらえる機会ができた。来年度のテーマから、子供たちは白馬の特産品を知っているのかなというのが疑問。紫米は村外ではあまりたべられない、ホウズキ、夏はおいしい野菜ができることなど子供たちに地道に伝えていきたい。

〔福島委員〕 地場産推進会では地場のものをできるだけ味わってほしいとの想いで行動しているが、作り手の減少で、地場品をいつまで提供できるかという懸念がある。若い人の農業教室を開いていただきたい。できるだけ自分たちで作ったものの加工品までつくっていききたい。(寒干し大根、お宝漬け)次第に大きいところではなく、小さいところで沢山使ってもらえるようになっていく。TMなどに力をかけていただければいいのだが…。

昔と違い今の親は関心があっても物をつくらうとしない。作りたい気持ちを利用して、行動につなげていければよいと思う。

〔太田委員〕 地道にやっている事しかできないが、保育園では遊びを通して学ぶことが多い。保育園の小さな畑で触れたり、頂いた野菜を実際触ったり、食べる時もまずメニューを口に出していることから始めている。子供たちはそもそも食をあまり知らないなので、それを教えていく事が今は重要。

〔塩島委員〕 具体的に何かをやっているわけではないが、学校教育のなかでテーマに絡めながら多面的なアドバイスをしていきたい。また、学校給食施設の建設が予定される中、関心をむけていただければ。

〔田中副会長〕 2期の計画は1期の計画より進んだものになったと感じる。議会としては5年間やっていくなかで、基本条例など作成する意欲でやっていただきたい。食育基本条例を策定する自治体が増えている。全国で食育の大事さが広まってきているので、作っていただきたいという希望ある。

〔松沢会長〕 個人的にトマト等学校や保育園にもっていつている。白馬の夏野菜は日本一で味もよい。本物の味を知らない人は多いと思うので、白馬の良さ、白馬が作る本物の味を小さいうちから知ってもらいたい。また、福島委員の言うとおりに、後継者問題に関し、農業関係者が協力し

て、私の畑でもよいので、年に1回でも若い人の農業体験ができればよい。皆で力を合わせ一歩ずつやっていければ。

〔事務局：横山課長〕 究極を言えば福島委員の発言のとおりで、農政課としても応援はしているつもりではいるが、ただ言うだけでは解決になっていないのが現状。学校給食の仲間に農業補助を入れていくのはやっていかなければできない。大久保委員が言った通り、たとえばホウズキを給食に出したいが1つ1つの売り上げがつかないということもあるが、先日生産者側と話をし、助成をしてなんとか最低年1回は食べさせたいという打ち合わせをしている。紫米は、大量に使っていただきので是非相談していただきたい。

また、まだ同意を得る段階ではあるが、オリンピック道路沿いのクロネコヤマト周辺約50ヘクタールの圃場整備を予定している。現在、国も県も米だけ作るというのは認めてくれず、農業所得の上がるようなもの（産地づくり）を行政としてはやるべきと考える。

加えて、毎年行っている野菜作り講習会の受講者をひろげ、PRできたらよい。（新聞・広報等）

〔事務局：太田課長〕 先ほど話に出たように、今のトマトは品種改良もされ、昔のようなトマトくさいトマトにあまり出会わなくなった。そういった本来の味を教えるのも大切だと考える。

また、支援ルームでは、やしょうまやおやきなど子供たちだけでなく保護者を巻き込んだ形で郷土食に触れる活動をしている。こういった活動については引き続きやっていきたい。

かつて教育委員会で福島委員達に講師をお願いし、北小学校で豆腐作りを行った記憶がある。来年度より信州型コミュニティスクールが始まる中でこういった学校等と団体との取組の1つとなっていくと思うので、各団体の情報共有のうえで食育を推進していければと考える。

〔松沢会長〕 全体を通しての意見を求めた。

〔事務局：横山課長〕 農政課で来年度は「地産地消推進の店」のような制度を考えている。ただメリットを付けなければ難しいかなとも思うが、なにか目に見える形での活動をすべきと考える。たとえば「白馬産のコメを使用しています」など。

〔福島委員〕 食堂あたりでは実際に紫米を使用している場もある。そういったところに卸で提供してはどうか。

〔横山課長〕 生産者との話次第ではある。

〔田中委員〕 とても有意義な会議になったと感じる。来年度のテーマが決まり、それぞれの課題がで会議で、前回太田委員から、「よそから応援に来ていただくのが子供達の勉強になる」という意見あったが、せっかくこの会があるので、来年どう進めるのか、行政で核になってもらい各団体で連絡を取り合い、うまく絡まっていけばいいのかなと思う。

〔松沢会長〕 会のメンバーの能力を事務局でうまく使っていただきたい。他の意見を求めた。

〔事務局：丸山〕 今後の予定について、年度ごと年末か年度末に各団体における状況確認、来年度に向けての意見交換の場として会議を試食会等と併用して開催する予定。

〔松沢会長〕 事務局の説明に対して質疑・意見を求めた。

〔福島委員〕 要請の需要供給がすぐに出るような形がほしい。調整する場所は事務局でいいか。

〔事務局：太田課長〕 それに関し、教育関係が多く関わると思うが、来年度から各学校に配置する信州型コミュニティスクールのなかのコーディネーターが探すと思うが、学校に関し、行政はコーディネーターに繋げていく形になるかと思う。生産者に関してのことは農政課に相談していただければよい。

〔大久保委員〕 学校給食側と生産者側の会議が一昨年はあったと思うが今年度はなかった。給食を提供する側としても、地場産のものが何があるかを把握しきれていないので、今は人づてや、時期がずれたり手探りでやっている状態。可能であれば新しいものや入手経路も含めて密に連携できる機会が欲しい。

〔事務局：横山課長〕 教育委員会で毎年行っていたのだが、一昨年学校と生産者の関係が悪化した影響がある。直接言い合う場は必要。農政課で検討したい。

〔松沢会長〕 学校給食は規模が大きいので量の問題があり、今後共同給食施設が出来るにあたり、それぞれ向けに調整していかなければ、よそから調達していかなければ間に合わなくなる。

しかし、現状作り手も減ることで1つの農家でまとめることが難しくなっている。逆に学校のほうから扱いやすいものをそれぞれ中心にやっている場に提案していただけると嬉しい。現状難しい。

〔田中委員〕 農業改良普及センターで昔郡内それぞれの栄養士を対象に「産地見学会」というものを行っていたが、いまもやっているのか。すごく勉強になった経過がある。その頃白馬独自で行っていたのだが。できればまたやっていただきたい。

〔滝澤委員〕 今は大町温泉郷のほうで行っている。

〔福島委員〕 栄養士さんを畑へつれていき、たとえば「こういった状況で虫がいることがある」など実際に見てもらった。

〔田中副会長〕 共同給食施設が出来るにあたり、地盤産のものを大量に消費できる機会がもつたいない。早い対応が必要になってくる。地場産を使ってもらうにあたり、1人専属のコーディネーターがいてほしい。

〔事務局：横山課長〕 とてもいい考えで、人を探したこともあるが、それに見合う人材を探すことが難しかった。必要とは思う。

〔福島委員〕 今の「ママ友」はすごい。うまく使えたらよい。最終的に今の若い人はおいしいもの、いいものより「お金」。それが伴わないと労力は得られない。

〔松沢会長〕 皆で力を合わせ1歩1歩進み、5年たった時に供給の問題が少し解消しているとよい。協力願いたい。

〔太田委員〕 調理師さんからは地場産のものを使うことが扱うのが難しい（虫など・時間・手間）嫌という声もある。地場産のものを守るために人材を雇っていかなければいけない。守りたい気持ちと現場の人間の両方の声を聴いていただきたい。

#### 4. 閉会

〔松沢会長〕 答申については今回の会議での修正をしたのち、24日に会長から村長へ答申したい旨説明。今後このようにして各団体で連携しながら、食育活動を展開していければと考える。会議出席にお礼を述べると共に、今度の進行に協力いただけるようお願いし、閉会を宣言した。

終了 16:00

以上